



# 新しい学校づくり勉強会

## みんなで義務教育学校を学びました



市民のみなさんと行政が共に学ぶ機会として、3月18日(土)、坂部区民センターで「新しい学校づくり勉強会 みんなで学ぼう!義務教育学校」を開催しました。

勉強会では、義務教育学校の実務経験がある校長先生を講師としてお迎えし、義務教育学校の実際について話を聞きました。

講師である京都市立小栗栖中学校の今津敏一(いまづ としかず)先生は、京都市で初の義務教育学校となった東山泉小中一貫校の開校準備に関わり、開校後は教頭、校長として5年間勤務され、現在は、新たに令和7年度に開校する義務教育学校の開校準備に携わっている方です。



講師のお話の内容の中から、実際の京都のケースを一部紹介します。

### なぜ義務教育学校をつくったの？

地域の学校が単学級になってしまうことから、地域から「3小学校と1中学校を再編して小中一貫校をつくってほしい」との要望書が提出されました。

子どもたちにはクラス替えができ、切磋琢磨できる環境で育てたいという地域の思いがありました。

### 小中学生の違いにつまづきをつくらない工夫とは？

- ・中学校になっても知っている先生がいることで、子どもも保護者も安心です。
- ・中学校は教科ごと違っていった授業のやり方を、9年間の統一のルール(発言の仕方・名前前の呼び方など)としました。
- ・5年生から一部教科担任制を導入、6年生から50分授業にするなど段階的に慣れることができるようにしています。
- ・5年生から中学生と一緒に部活動をするか、小学生だけのクラブ活動をするかの選択ができるようにしています。

今回の勉強会では、講師の講演の後に、さらに理解を深めるために参加者と講師の対話の時間を設けました。一部地域の方からの不安の声もありましたが、保護者からは「みんなで新しい学校をつくっていきたい」との力強い声がありました。勉強会は今後も随時開催していく予定です。

# 第3回新しい学校づくり検討会



令和5年2月9日(木)に、第3回新しい学校づくり検討会を開催しました。

今回は、学校施設の機能を考えるにあたり、「子どもたちや教職員がどんな使い方ができたらよいか。」「自分たち(保護者・地域・企業)がどんな使い方をしたいか。」についてワークショップ形式で意見を出し合いました。

さらに、第1回のコンセプトを考える際に出された意見と今回の施設の使い方での意見に合わせて、グループごとコンセプト案を考えました。

今回の検討会の意見や教職員のヒアリング結果、そして子どもたちの授業やワークショップでの意見を基に、次回は、学校の教室や体育館等の機能などの考え方を提案します。



G	各グループから出されたコンセプト案	
	榛原地域	相良地域
1	安全で地域に開かれたみんなの学校	伸び伸びと学ぶ・みんなの学校
2	地域♡(ラブ)仲間と共に学ぶみんなの学校	ここだけだよ～「地域が育てる」みんなの学校
3	多様性に対応する	笑顔あふれる みんなの学校
4	親、子供、全員が「困らない」安心出来る環境 みんなの学校	夢と絆 みんなの学校
5	わくわくする みんなの学校	毎日通いたくなる ワクワクが止まらない 一人一芸 みんなの学校



## 新しい学校づくり豆知識2

### 新しい学びを実現する学校施設とは？

令和4年3月に、文部科学省の「学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議」が報告した「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」では、「未来思考」の視点で学校施設全体を学びの場として創造するとしています。

これを実現するための5つの姿の方向性は次のとおりで、牧之原市が新しくつくる学校施設にも取り入れていきます。

#### ①柔軟で創造的な学習空間

例：個別学習や少人数学習などに柔軟に対応できる多目的スペース

#### ②健やかな学習・生活空間

例：リビング空間、空調整備

#### ④安全・安心な教育環境

例：自家発電・情報通信設備、バリアフリー

#### ③ともに創造する共創空間

例：地域の人たちと活動できる場所、施設の共有化

#### ⑤持続可能な教育環境

例：省エネルギー化、木質化



学校施設全体が学びの場：階段で発表

新しい学校づくり検討会は、令和4・5年度での検討を予定しています。多くの方のみなさんの意見を反映した学校をつくるために、さまざまな形で意見を聞きながら進めていきます。

これまでのかわら版はこちらから